



「食」を用いた多代的プログラムの実践による 多世代のネットワーク構築

Construction of a Multi-Generational Network
through the Pluralistic Program using "FOOD"

地域再生計画/コミュニティデザイン/論文

建築デザインコース

重山 隼人

Hayato Shigeyama

◎研究目的

高岡市吉久(以下、吉久)では、まちづくり活動主体の高齢化や構成年代の偏り、空き地の増加などが課題である。そこで、多世代の地域交流が起こる場を創出し、多世代のネットワークを構築することが重要ではないかと考えた。

吉久では、家庭菜園や畑作業を行っている人が多いことや、毎月第3日曜日に開催されている朝市で飲食系が賑わいを見せていることに着目し、「食」を用いた多代的プログラム(以下、本プログラム)を行おうと考えた。本研究では本プログラムの多世代のネットワーク構築への有効性を検証することを目的とする。

◎研究方法

本プログラムの多世代のネットワーク構築への有効性を検証するために、対象敷地である空き地をよしひさえんと呼称し、本プログラムの参加者を対象に観察調査やアンケート調査、ヒアリング調査を行う。

◎結論

本研究では、本プログラムを行うことで、多世代のネットワーク構築にどのような効果があるのかを観察調査やアンケート調査、ヒアリング調査を用いて検討した。その結果、本プログラムは、「食」の活動の種類とイベントや活動の回数が複数あるという多元性によって、多様な人の参加・交流機会が創出するだけでなく、参加・交流を促進する効果があることが明らかになった。加えて、今後、多世代のネットワークを構築するきっかけになる可能性が示唆された。